

健康 わんだーらんど Wonder Land



冬号

2025
Vol.79

健康増進センター広報誌『健康ワンダーランド』です。今回は“不整脈の手術方法”について取りあげてみました。

「低侵襲外科的心房細動手術・左心耳閉鎖術

～からだにやさしいウルフ・オオツカ法～」

佐世保中央病院 心臓血管外科 部長

低侵襲治療センター 副センター長 谷口 真一郎

【はじめに】

心房細動を有している患者さんは、高齢化にともない増加傾向にあり、日本で100万人以上ともいわれています。心房細動の最大の問題は、頻脈や徐脈といった脈が速くなったり遅くなったりなど不整脈による問題もありますが、時には致死的になったり非常に重症化したりすることもある『血栓性脳梗塞』を引き起こしてしまう『脳の病気』でもあることなのです。

血栓性脳梗塞では、血液が固まりにくくする抗凝固剤という薬を一生飲み続けることが一般的な予防法となります。しかしながら、ご高齢の心房細動の患者さんのなかには、抗凝固剤服用による出血などの副作用や生活の質を著しく損なう方がいらっしゃいます。

そのような患者さんには低侵襲心房細動手術である『ウルフ・オオツカ法』が有用と考えられます。この外科的治療は、内視鏡を使用したからだに優しい不整脈治療と同時に『左心耳』という心房細動で血栓ができる場所を切除や閉鎖することで血栓が出来る場所をなくし血栓性脳梗塞を予防する手術です。

【心房細動について】

心房細動は稀ではない不整脈ですが、実は脳梗塞などの危険性をはらんだ病気です。心房細動は規則正しい脈ではなく、それぞれの脈の間隔が不規則になる不整脈です(図1)。その最大の問題点は、脳梗塞などの血栓塞栓症が突然起こることです。心房細動により左心房内の血流が淀み、左心房内に血栓が作られ、その血栓が脳などの重要臓器に流れてしまうことが原因であると考えられています。左心房内の血栓の99%は左心房から突出した犬の耳のような『左心耳』にできることがわかってきています(図2)。

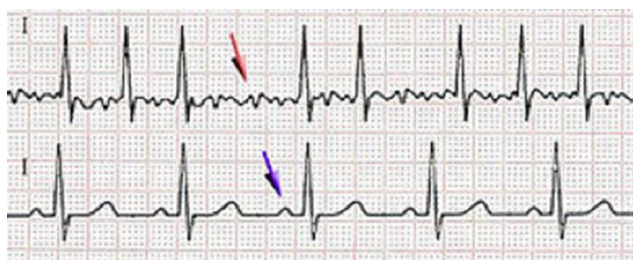


図1 心電図(上:心房細動、下:正常)



図2 左房内血栓、左心耳内血栓

⇒ 次ページへ

心房細動が原因である脳梗塞は脳梗塞全体の約20%を占めると言われ、他の原因の脳梗塞と比べて、死亡率が高く重い障害を残し予後が悪いという特徴があります(図3)。命にかかわるだけでなく重度の脳梗塞の後遺症を背負ったまま長期入院やリハビリテーションが必要になったり、高いレベルの介護が必要になったりするなど、ご本人のみならずご家族への負担は大きなものになります。心房細動の患者さんの中でも、75歳以上のご高齢の方、過去に脳梗塞などを患ったことがある方、糖尿病や高血圧症のある方などは、脳梗塞発症あるいは再発のリスクが高いと言われていますので、予防と治療が重要となります。

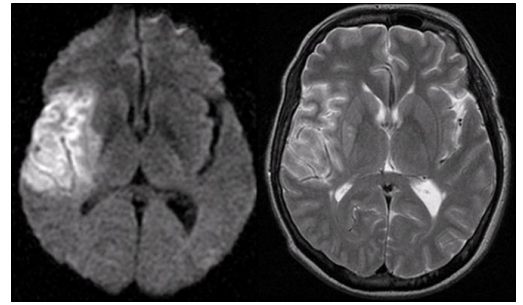


図3 心原性脳梗塞の脳MRI画像

【抗凝固療法について】

心房細動が原因の脳梗塞の一般的な予防法は、抗凝固薬を服用する抗凝固療法です。抗凝固療法は、薬を飲むだけですので、心房細動による脳梗塞の危険性が高いと判断された患者さんにすぐに始められるという利点がありますが、一旦飲み始めたら、一生の間、必要な量を休薬することなく続けなくてはいけなくなります。血液が固まりにくくすることで、血栓を予防する治療ですが裏を返せば出血の危険性を抱えることになります。

【外科的心房細動手術・左心耳閉鎖術(ウルフ・オオツカ法)】

心房細動の患者さんの代表的な不安や悩みは次の3つです。

- ①抗凝固薬を一生のあいだ休まず服用しなければならない
- ②心原性脳梗塞など血栓塞栓症の危険がある、③動悸症状で行動が制限されている。



このように心房細動の患者さんは不安や悩みを抱えることになりますので、低侵襲の心房細動手術であるウルフ・オオツカ法は内視鏡下手術というからだと優しい手術で、左心耳閉鎖術により①と②の問題を解決します。可能であれば、外科的心房細動手術により ③の問題を解決します。

この方法を組み合わせて、1度の手術で全ての問題を解決する可能性がある手術です。

【左心耳閉鎖術:左心耳閉鎖クリップ、左心耳閉鎖デバイス】

脳梗塞を起こす血栓の発生部位である『左心耳』を専用のクリップや切除器具で安全、迅速、かつ完全に閉鎖したり切除したりする方法です。当院の左心耳閉鎖術では、図4のように左心耳の外側から専用のクリップで閉鎖するので心臓内の血流に触れる異物はなく、ほとんどの患者さんが術後1ヶ月ほどで抗凝固療法から離脱できます。

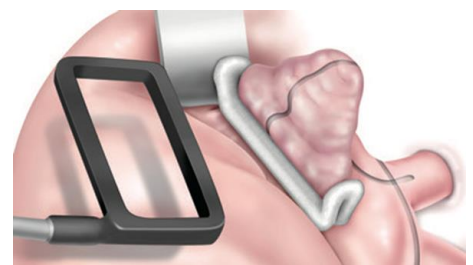


図4 左心耳閉鎖クリップ(AtriClip)

図5(次頁)は、当院で手術をさせていただいた方の術前と術後の心臓CTになります。左の図の赤丸で囲んだ犬の耳のような構造物が左心耳ですが、当院のウルフ・オオツカ法による低侵襲手術は左心耳クリップで閉鎖しますので、右図のように左心耳が完全に閉鎖され造影されなく(映らなく)なっています。緑色が専用の左心耳閉鎖クリップですが、完全に左心耳が閉鎖されたことにより、左心耳内に血栓は形成されず、今後の脳梗塞をはじめとした血栓塞栓症の予防が期待できます。

【当院の手術方法について】

手術は全身麻酔下にほとんどの手術操作を胸腔鏡という手術専門のカメラを見ながら行います。したがって、創部が小さくなりますので、左心耳閉鎖術単独であれば、からだの左側に約1cmの創が3カ所と約3cmの創が1カ所となり、約1時間の手術となります(図6右)。肺静脈隔離術を同時施行する場合は、からだの右側にも約1cmの創が4カ所で、合計で3時間程度の手術時間になります(図6左)。もちろん手術は安全かつ丁寧に行いますが、出血や視野不良などの問題で時間が延長する場合があります。



図5 心臓CT (左図の術前の左心耳[赤丸]が、術後には左心耳クリップ[緑色]にて閉鎖され映らなくなっている)



図6 左:右側胸部創、右:左側胸部創

【入院経過について】

入院期間としては、手術2日前の入院で抗凝固療法の内服薬から点滴に変更します。術後3ヶ月間は抗凝固薬を服用していただきますが、服用するべき理由がなければ、その後不要となります。

◆ 当施設の取組みが協会けんぽ特定保健指導事例集に掲載されました！

この度、協会けんぽからリリースされた特定保健指導事例集に当施設の取組みが取り上げられました。この冊子には、全国の中から4施設が選ばれ、特定保健指導の実施を推進する上でのポイントやノウハウ、担当者の声がまとめられ、健診機関において特定保健指導に取り組む際の参考として利用されるものです。現在、健診結果で生活習慣病のリスクがある方に対して保健師等がサポートする特定保健指導を実施していますが、特定保健指導を受けて、運動習慣や食生活を見直し、生活習慣病の予防・改善につながる一助になれば幸いです。



左記のQRコードより、協会けんぽホームページの事例集を閲覧することができます。



佐世保中央病院 予防医療センター 基本理念と基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い健康診断を提供します。
3. 健康診断や保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただける予防医療を提供します。
5. 予防医療業務で得られた個人情報の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

予防医療センター 診察担当医

	月	火	水	木	金
午前診察	常勤医： 中尾・寺園・川内・藤田 非常勤医： 元永・原・石嶋・望月				
午後診察	※ 毎日4名の医師が担当いたします				
婦人科検診	布施	布施	布施	石丸	布施

人間ドック・健診に関するご予約・お問い合わせについて

☆健診をご希望の方は、**完全予約制**になっておりますので、予防医療センター窓口にお越し
いただくかお電話でのご予約をお願い致します。

○お問い合わせ時間

月～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00

○休診日 土・日曜日、祝日 8月14日～15日（夏季） 12月30日～1月3日（年末年始）

【予防医療センター直通】

電話番号 (0956)33-5335

FAX番号 (0956)33-5336

メールアドレス sch-kenkoh@hakujyujikai.or.jp

*ただし、メールでのお申し込みは受け付けておりません。



編集後記

新年おめでとうございます。本年も、地域・職域の方々の疾病予防と健康づくり機関
として、皆さまのお手伝いができればと職員一同、気持ちを新たにしています。

今回は、“不整脈の手術方法”について、担当医師より報告させていただきました。
ご参考いただければ幸いです。本広報誌“健康わんだーらんど”の次回発行は
本年7月頃を予定しています。どうぞご期待ください。

